

,ェイク・ガンプラで牛耳ろうともくろむ一大闇金型マフィアの本拠地、 ーンはひとり、 れは星の裏側か、それと ガンプラにフィニッシュを施しながら、 溜め息のように呟 …この世界を

を貫き天高くそびえる超高層建築最上階のひとの気ないモデリング・ラボで こちらの邪魔をする気配はないようだが

彼だが、もともとは学校にも行かず朝から晩までガンプラ作りに夢中になり、 つしか世の流れからドロップアウト、気づけば行き場のないチンピラにまで 組織のナンバーツーであるアンダーボスの座にまで登りつめた

ワークを踏み台に利用しようと計画ッニう…で、足がかりとしてまずはGBNを掌握し、ワールドワイドに繋がる広大なネット足がかりとしてまずはGBNを掌握し、ワールドワイドに繋がる広大なネット に、シューンはなんとしてでも恩返しがしたかった。ドンの宿願で ちぶれていた彼を拾いあげ、ここまでに育て上げてくれた組織の首領 ある組織

のポリキャップ。その秘密を手に入れ、逆に利用することができれば、ある は我々がこの星の頂点に君臨するための大いなる力となるかもしれない。 グアウトできないようにしようとしたアレだ)、いともたやすく打ち破った サイバー介入を(エピソード〇のラストで、 彼らの世界支配陰謀の漏洩を防ぐ目的で発動させたスーパ ジムとボールをGBNから ・ウル

は巨大なダムも決壊するというものだ。 小さな穴だったとしても、軽んじて放っておけば次第に亀裂が広がり、 柔するか、難しいようなら口を封じなければ。例えそれが虫二匹通れるほどの 連絡を絶った二人についてもなんらかの対策が必要だろう。再度懐 やがて

「こちらからの接触をブロックして 手にしたガンプラに見事に追加されたパネルラインの仕 る彼女たちと、 強制的にコネク B N

その名はジオング・スペクトラ。

亡霊の名を冠した、白亜の巨人。

じめてのガンプラ『MGジオング』を買ってもらった時の思い出。 パーを握った、至福の時間……。 ふと彼の心の中に記憶のそよ風が吹き抜けた。それは、 一心不乱にトリセツと向かい合い、 いまは亡き両親には 無我夢中で

乗り込むべきでは?」

掛けられた声に、 シューンはハッと振り向いた。

いつしか背後に、仕立てのいいグレ いる。組織の幹部(カポ・ ・シューンが座るアンダーボスの座を虎視眈々と狙うヤサ男。 ム)の中でもシューンと並ぶ実力を持っレースーツを身にまとった男がひとり立

限に抑える必要がある」 「不本意だが仕方あるまい、 こちらの正体が明かされないよう、

静かに告げるシュ 「なるほど……」 と含みのある笑みを

にまえ、ガンプー 「いまこそ闇と光とがその役割をただす時、 構わずシューンは、 完成したジオング・スペクトラを手に立ちあがった。 我らが宿願の成就に、 御力を添え

小声で宣誓すると、 モデリング・ラボを後にす

ヤサ男は宣誓を返すと、「ガンプーラ」 シューンの背中を冷ややかに見つめ

「お飲み物のお代わり、お持ちいたしましょうか!」

GBN内のいつものガンプラファミレスのボックス席で、

御用聞きのごとく

腰を低くして媚びへつらうボ て持ってきて」 気が利くじゃん。 ーはふんぞり返って、

…コンソメスープ…

「ただちに!」

「ちょっと待てって」 弾けるように立ち上がりド 呆れて呼び止めた。

なにヘラヘラして テーブルの向かいでペロと舌を出してみせるノズと、 オレら、この二人にず

ついでにオレのレモンスカッシュ

足どりウキウキと立ち去っていく。

「ジムは自分で取りに来て …ったく」 そんなにいっぺんに持てないから!

ノズは、カラになったグラスから大きめの氷をひとつ摘まみ、

レジェンドガンプラのモデラーが誰なのか」 「マジでホントにわかんないの? 最後のゴールデン・ポリキャップ持ってる

ガリッとかみ砕く

知らねぇって言ってるだろ? いままでの6個だって、 たまたま6 人の

そう言うとジムは、 ェンドと出会ってガチ偶然手に入ったんだから」 レモンスカッシュのグラスをあおり、 ノズと対抗する

っに残っていた氷を全部口いっぱいに流し込んで 「ももごもご、ももごっもももごもごも もごもごもご?(そっちこそ、 なにも聞いてねぇのかよ?) ャップの情報盗めって言われたヤツ

「なに言ってるのかまったくわか

なんにも聞いてない

眉しかめるノズの一方で

聞き取れるんだ!!」「ももごもごもごも!!(聞き取れんのか 同時に驚いた二人に、 ノズちゃんとマーキ オレンジジュ ース&コーラとコンソメスープを手に戻って来て、 マーキーがギャルピースを向ける。 一ちゃ ゴールデン・ポリキャップが全部集 そんなテーブ よっ?)」

そっちこそソレ知らないなんて、 ったらどうなるかも知らないの? 驚愕を通り越して もはや唖然だし

ノズはお代わりのグラスにストロー

オレ的には、きっと超ゴキゲンで盛大なパ ィが始まるに違いねぇっ

るジムに、 ノズは 「まったく

プチ・ルー (ノズ&マーキー)

リキャップを集めることでアイ

ドルを辞め、バンド活動に転身

しようとしていたが、アイドル ファンであるボールの熱い想

いもあり、プチ・ルーへの残留

シューン

ジオング・スペクトラの製作者

にして、ジム&ボールに立ちは

だかったモデラー兼ダイバー。

プラ板とパテで外装を改修す るなど、そのテクニックには疑

念の余地はない。「ガンプーラ」

を流通させる闇金型マフィアと 深いつながりがあるようだ。

を決めた。

口の中の氷をようやくかみ砕きニン 哀れな目を向けた。

EHARACTER キャラクター紹介

GBNの中に捕われたり、黄金のポリキ ャップを探したり、フェイバリット・アイ いるポリポッドボールの製作者&ダイ バー。知り合ったノズとマーキーがプ チ・ルーを辞めてしまわないか、ハラハ ラドキドキの日々。

ラデ/ス (ティム・バレット)

の証とも言える。

ガンダムストームブリンガーの製作者& ダイバー。黄金のポリキャップを巡る度 重なるバトルの中で一介のパーリィ野郎 から成長を果たし、ボールとの絆も深ま っている。追加装備として製作された多 目的総合コンセプトウェポンモジュラー 「G.H.L-M.A.D GUN」は、そうした成長

オレ的には、きっと超ゴキゲン 盛大なパーリィが始まるに違いねぇって 待してんだけど

SUMPRO BUILD DIVERS SIMM & BALL'S WORLD CHALLENGE

トラヘラしてんだよ。 、この二人にずっと 騙されてたんだぞ! 8



ルはわくわくと問うた。

報と引き替えにもらえる報酬のハズだったんだけど」 ま、これってわたしらがゴ ・ルー卒業して、念願だったバンドデビュー ょんと人差し指をあてて思案すると、

ボールの表情が一転、絶望の淵に暗く落ち込んで

「大丈夫だからー

もブンブンと首を縦に振る。

それってつまり、ゴールデン・ポリキャップが7つ全部集まったら、

ジムはノズに向かって興味津々と身を乗りだした。

もちろんそうだって決まったってわけじゃないけど れくらいの夢、抱きなさいよってハナシ」 どうせ期待すんなら

「だったら、僕はもう叶ったかな!」

なにやら頬を染めるボールを、

こうしてプチ・ の二人とプラ

もはや呆れを通り越し同情を声にするジム

っに困り顔で表情を緩めた、 ありがとう」 石の一方で、

の視線から逃げるように、ノズは慌てて隣のマー 望みがかなうとしたら何をお願いしたい?! の方を向い

た時の、お淑やかだった彼女を想わせ

目を丸くして見つめるボ

まるで初めて出会っ

手もとのグラスに視線を落とし、そっとこぼした声は、

……温泉旅行…

その翌日、ラグランジュポイント2 の百式壊 ご の姿があっ.

クラッシュのコクピットでマ 交信ウィンドウの中から「?」

スバトルやらないかなんて、 申し出る

自分自身驚いてる

あれこれ難しく考えすぎてたのかもしんないなぁって。 目分っていままで、 意味 なん

ノズの表情が「え?」と問う。

…あたしもあの時、自然と言って

一瞬驚いたのち、ノズは、思わずクスクスと、

いいんじゃない? ボールだってわたしらと温泉なんてまさに夢だー 温泉行って羽伸ばすの、 わたしも思いっきし大賛成だ びっ

クラッシュを、闇の光とも思える漆黒が包み込んだ。 うに大きな笑い声を重ねた も笑い出す。二人は交信ウィンドウ越しに顔を見合 その時だった、 突然、 キュベレイダ -と百

ハッと息を飲んだノズとマ 聞き覚えのある声が届く。

我々との契約はどうした?」

ノズは、姿の見えない相手を、 それでも強く見据えると

わたしたちは降りる」

きっぱりと言った。

わたしとマーキーは、これからもプチ・ルーで歌い続ける。 わたしたちを

待っていてくれるファンの為に、笑顔を届け続ける.

ノズと心をひ とつに漆黒を睨みつけ

ることはないか?

バンドデビュー

・この気持ちは、 絶対に変わ

一瞬の沈黙ののち、

次第に辺りの漆黒が失せ、 満天の星のまたたきが戻り



多脚型の移動砲台として、ストームブリンガーの サポートを担ってきたボールの愛機。バトルによっ て中破し、一時は応援に徹したときもあったが、現 在では「G.H.L-M.A.D GUN」を携えたことでサポ

ガンダムストームブリンガー

ジムが製作したガンダムタイプ。当初から汎用性に優れた全領域型 の機体であったが、「G.H.L-M.A.D GUN」の装備によって、よりその 戦闘の幅が広がった。デカブツとの戦いが多い中で、機動性を残しつ つ攻撃力を増強していく方向性を選んだことが正解だったようだ。

GUMORM BUILD DIVERS SIMM & BRILL'S WORLD CHRILENGE 全部集まったら、

ボールには指一本 せない・・・・・もしそのクソきたねぇ したら・・・・・ぶっ潰す!

宇宙空間の中に、そのガンプラは姿を現した。 マーキーは息を飲み、ノズは思わず声を漏らし

百式クラ

連邦対ジオンの激戦跡を摸したあまたの残骸漂う

「白い……ジオング・

「では君たちには、 このGBN わねばならな

宿願成就への道を、邪魔だて

ジオング・スペクトラのコクピット ンは無表情を氷塊のように

「二度とログインできない様、我が組織が開発したスーパ

バー・ウェポンにて撃破させてもらう」

だからもう放っておい

ノズは思わず願い叫んだ。

しかしシューンは、その眼をいっそう冷たくとがらせ

キャップと呼んでいたね。それを、 「もし私が黄金のポリキャップを あの二人から奪い取ると言って そうそう君たちは、 邪魔を

「気づかなかったようだな、私があのファミレスの、 「だったら、 話は違って くるかも……」

SUMPRE BUILD DIVERS SIMM & BALL'S WORLD CHALLENSE

ら……ぶっ潰す!」

「ジムとボールには指一本触れさせない……もしそのクソきたねぇ手で汚した

二人の表情に、かつて

見た狂気が戻ってくる。

『アー・バオア・クー』ディメンシ ジムのガンダムス ムブリンガ ノズたちとの待ち合 ツ

ムブリンガーのコクピッ

「着てく服に迷って遅れるとかっ

少女漫画のドジッ子ヒロ

「って言うか、 ムなんだから、意味なく GBNにログインし たらいつ もと変わり ね

ルのコクピットで言い訳する 見えるのは連邦とジオン、 ように必死に言いつつ、 双方のモビルスーツや

68WC ★ 00S

戦闘艦艇の残骸だけ、ノズとマ ーのガンプラの姿はない。

イフル構えてるのかもしれないけど、 ちゃんの百式は、もしかしたらどっかに隠れてGHL‐スナイ ノズちゃんのキュベレイまでいないっ

やっぱ、帰っちゃったんじゃね?」

ええええーつ!」

ールの悲壮な叫びに交信が思いきりハウリングした-その

ノズちゃん!」

届いた声に、ボールはホッと安堵をもらすと、

待たせちゃってごめん! 直しちゃってて おいた勝負シャツをさ、いつの間にか母親が、 今日みたいな大事な日のためにって大切にしまっ 妹たちが学校で使う雑巾に縫

ジムはふと、彼女の声の様子がどこか ちょっと待った!」

に混じり、

途切れ途切れに――

おかしいこと気づいた。激しいノイズ

「二人とも、

来ちゃ駄目……」

と百式クラッシュを探し、再度辺りに目を凝らしたジムとボボールも異変を察知する、どこから声が届いているのか? キュベレイダム ッと

人ダボロになったダムドとクラッシュが漂って 激戦跡のモビルスーツの物だとばかり思っていた残骸の中に、肢体をもがれ

何があった!!」

慌てて近づこうとしたストー メガ粒子砲のエネルギービームがかすめた。間一髪で制動をかける。 とポリポッドボールの鼻面を、

っくりと白亜の姿を現す。 シューンのジオング・スペクトラが、 轟沈したムサイ級の残骸の影か

二人は息を飲んだ、突然正体不明のガンプラが現れたことにも無論驚いた そのジオングの完成度の高さに、二人は目を奪われた。

> とパテを使った自作だ……」 「しかも、あの外装の改修……他のガンプラとのミキシングじゃない、 ジムは圧倒され、 ルは必死に脳内のエアトリセツをめくって、

魅入るように目をみはる二人のコクピットに、シュ ンの落ち着いた声が届

ールはハッと緊張に身をこ わばらせた。

「ひょっとしてあんた……ポリキャップの情報盗んで 来いってノズとマ

なりの報酬も支払おう」 「もし大人しく譲ってくれれば、あのキュベレイや百式の様にはしない。

報酬?」ボ-ルは冗談めかして応えると、 「なぁんて、 残念だけど僕

で、首たてに振るわけには……いかねぇってヤツ! ら、そういうの間に合ってるんで……だよねジム?」 「お前が言うのもどうかと思うけど、 あんな目にあわせた相手じゃな、どんなに好条件提示されたところ まぁ、事実ってヤツ?それに、 ノズと

トラの肩のドアが開き、新たなスラスターが姿を現し 言うが早いか、 M·A·D GUNとビームライフルを両手に構えロックオン、 ムブリンガーは、 -その直前のことだった、 ジオング・スペクトラに突進 スペク した。

「なっ?」

「追加のスラスター!!」

婒露すると、ストームブリンガーから放たれた二本のビー 「ならこっちも!」 驚くジムとボールの目の前で、ジオング・スペクトラは凄まじいマニューバを ムを巧みにかわした。

ツとして装備した多脚をカウンターウェイトとし、 宇宙空間で機動性が大きく増す。 ルは表情に気合を入れた。 ボールのポリポッドボー その反作用を利用すること カスタムパ

ームブリンガーと挟み撃ちにす

その時コクピットに、 …油断は駄目、そいつは怪しい術を使うコクピットに、ノイズまみれのマーキー の声が飛び込んでき

こ思うと、ポリポッドボ 次の瞬間、ジオング・スペクトラから闇色の波動が一帯に放たれ広がったか ムブリンガー を包み込んだ、すると

々に沈黙する。 ポリポッドボールが突然、機能を停止した。コクピットのコンソー 慌てて再起動しようとするが、うんともすんとも反応がない。

ク・スペクトラの手の指から発せられたメガ粒子砲が粉砕 ルの多脚 ジオ

でも、ドンに恩返しをす 冷たく鋭く尖らせると、メガ粒子砲の矛先を、 止したであろうジムのストー を傷つけることもなく、ゴー るためなら… シュー ムブリンガーに向けて ルデン・ポリキャップを手に入れたかった。 ンは微かに表情をゆがめた。 ・彼は心を鬼にし、表情を再び氷の様 ポリポッドボー 出来る事なら

……なん、だとぉ!」

思わず驚愕の声をあげた に向かってくる。シューンは咄嗟の機動でストームブリンガ と、威嚇のメガ粒子砲を連射しつつ、 GUNを放ちながら、凄まじいマニューバでジオング・スペクト ムブリンガーは機能を停止するどころか、ライフルとG·H 懸命に距離を作った。 ーの攻撃をかわ

なぜ機能停止しない?」

オング・スペクトラを睨みつけているジムから、彼のポケットから、 れている。その輝きはスト そしてようやく気づいた、ストー ト中の6つのゴールデン・ポリキャップから放たれていた。 ムブリンガー ムブリンガーの全身が、ほのかな輝きに包 のコクピットから、コクピットで

あの光……ひ ウルトラ・サイバー介入からお前たちを救い、 ょっとして、GBN内に閉じ込めるべく放った我々のスー ログアウトさせ

醒に勝利 した激闘の記憶が蘇る。

「じゃあお前は…… お前らの正体は、この世界をフェ イク・ガンプラで溢れさ

ようとしているっ 闇金型マフィアか!」

「なんでそんな酷えことしようとすんだよ!」

ジムの胸中に憤りが湧き上がる。

脳裏に、琉依Ⅹ≡ 思わず声に洩らしたシュ ーンの言葉に、ジ ムは息を飲んだ。

憤怒をぶつけようと そんな彼を近づけ するかの様に、再度ジムはジオング・スペクトラに突進 シュー -ン は、 ジオング・

> SUMPRO BUILD DIVERS SIMM & BALL'S WORLD CHALLENGE あの外装の改修・・・・・「Episode

プラ板とパテを使った自作だ……



いる。脚なんて飾りです。

ジオング・スペクトラ シューンが製作した白亜のMS(モビルスーツ)。指の先端にメ ごと射出・制御することも可能となっている。丁寧かつ緻密なス ジボリにパテとプラ板を使った外装など、神々しさまで獲得して

SUMPRE BUILD DIVERS SIMM & BALL'S WORLD

お前らの正体は、この世界を プラで溢れさせようと いう……闇金型マフィアか!

「この世界を牛耳るため、世界の富のすべてを、我らの手中におさめるた

懸命にかわしながら、 加えて頭部と腰部の砲口からも弾幕のように放たれるメガ粒子砲を、

66WC **★** 009

んなコトのためにガンプラを利用するなんて……寂しくないの なんのためにガンプラで戦う るわけではないと? 世界を牛耳りたいわけでもないと? なら貴

「なんのためでもない! ンは怒声のごとく告げ トルがたまらなく好きだ! ジオング・スペクトラの両腕を分離させた。 オレらはただ、ガンプラが大好きだ!

ジムも叫びを返す。

シュ・ ーンはギリリと奥歯を噛んだ。

そんなジオング・スペクトラのコクピッ

「あんただってそうじゃないのか!」

ボールの声も飛びこんでくる。

わってくる!」 「だってそのジオングからは……あんたのガンプラへの気持ちが思い

シューンはまるで殴りつけるようにコントロールグリップを操っ

執拗に放たれる攻撃を、 ジムは懸命にかわし続ける。

ムブリンガーの周りを取り囲んでいる。 オング・スペクトラと機体とを結んでいる有線コントールケーブルが、 激闘の様子を、息を飲み見守るしかないノズが叫んだ。見れば分離されたジ ストー

……誘い込まれた… :: !?

思わず声にしたマーキーの、ノズの、 身動きとれなくなったストームブリンガー ムブリンガーを固く羽交い締めにした。ケーブルの先端の手の指の砲口 …大切な人に恩返しがしたい ルの目の前で、 ジムに狙いを定める。 有線ケーブルがス

るメガ粒子砲の砲口を睨みつけた、そして すがるように告げるシューンを見つめるかの如く、 ジムは、 自身に狙いを定

ンプラバトルの素晴らしさを教えてやりゃ だったらニセモン作りの手伝いなんかじゃなくて、 - それこそホントの恩返本物のガンプラの……ガ



しになるんじゃねぇのか!」

次の瞬間、 一陣の記憶のそよ風が、彼の心の中を吹き抜けた。

い、無心でニッパーを握った、至福の時間……。 出。無我夢中で箱を開け、ビニールを破る……一心不乱にトリセツと向かい合 それは、いまは亡き両親から、はじめてガンプラを買ってもらった時の思い

シューンは砕けるほどに強く握っていたグリップをそっと離した。 今度は自分がドンに、あの豊かな時間を、返してあげる番なのか

しの静寂が過ぎる ムブリンガー を羽交い締めにしていた有線ケーブルが静かに解かれた。

シューンはハッとした。

与えてくれた父や母と寸分変わらぬ愛を自分に注いでくれた。 そうかもしれない。 そしてドンは、そんな幸せを

なにやらポケットが暖かく火照るのを感じた。手を入れ、

→大型ながら優れた加速力 を持ち、分離・コントロール 部を持つジオン グ・スペクトラ。ストームブ 勝敗を分けることになる。



中に生まれ現れたそれを握り、 取り出して見れば

「黄金に輝く……ポリキャップ・

聞こえた声に、ジムが、ボールが、ノズが、マーキーが、 :レジェンド 驚きの視線を向けた。

全員のコクピッ トに接近警報が鳴り響いたのはその時だっ

向かって来る一機のガンプラ

ルが気づいた「あれは

突進してきたガンプーラは、ライフルの狙いをジオング・スペクトラに そのコクピットで、

「どうやらアンダーボスの座にふさわしいのは、この俺のようだな!」 レースーツのヤサ男がニヤリとトリガーボタンを押した。

シューンは驚き思わず身を凍らせた。

攻撃を受け止めた。 ューバでジオング・スペクトラの前に位置取ると、盾となってガンプーラの 咄嗟にジムはスロットルを押し込む。ストームブリンガーは目をみはるマ

「ジム!」ノズが叫び、ボ ーが息を飲む。

見れば、 シュー ・ンがガンプーラにメガ粒子砲を放つ、 ストームブリンガーのコクピッ 命中、ガンプーラは霧散した。 ガンプーラの攻撃に貫かれて

あっという間の出来事だった。

四人はただ、言葉を失った。

なこを開けば全員が、コクピットの外に立っていた。視線をおろせば足もとの そんな皆を、眩い光が静かに包んだ。まぶしさに思わず目を閉じ ジムが、眠るように横たわっている。

どこかからか声が聞こえる。

して頬張ることも 「いまここに、7つのゴールデン・ポリキャップが集まっ 望みはなんだって叶う……天と地を入れ替えることも、 ・目の前に横たわるその者を、蘇らせ 星屑を金平糖に えに願い

「……なんだってかなうっていうなら シューンが見守る中、 ハールは、 ノズは、 願いはもちろ

「温泉旅行!」

皆の心から、ジムの記憶は失われた。 次の瞬間、 あたりを包む光は輝きを増し、 すべてをまばゆく消し飛ば